

## エゾシカ・ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 1 令和2年度（2020年度）エゾシカ・ヒグマWGの開催結果

#### ●第1回会議

令和2年（2020年）7月28日（火）釧路市（エゾシカ関係）／29日（水）釧路市（ヒグマ関係）

#### ●第2回会議

令和2年（2020年）12月14日（月）釧路市（ヒグマ関係）／15日（火）釧路市（エゾシカ関係）

### 2 知床半島ヒグマ管理計画の進捗状況等について

- ・知床の観光の魅力向上とヒグマとの軋轢問題解決等を図る新たな誘客イベント（カーフリープロジェクト）の実施結果が報告され、利用者に対する普及啓発活動が前進したことが評価されました。
- ・人身事故防止のための普及啓発について、観光船やシャトルバスの中からであれば近距離でヒグマの観察が可能であることから、観察が認められるケースと認められないケースを分けて取り組むことが重要、との意見がありました。
- ・羅臼で飼い犬を食害した問題個体 RT を迅速・確実に捕獲するため、許認可や対応方法等を予め確認・想定しておくことが重要、との指摘がありました。
- ・人身事故防止のため、現行制度に法的な強制力を持たせるための見直しの必要性や、見直しまでの間の普及啓発で使用するべき強い表現（人身事故につながりかねない極めて危険な状況下では「立入禁止」等を使うこと）の必要性が指摘され、引き続き検討課題となりました。
- ・地域による草刈り等のヒグマ出没対策について効果が実感され、その継続性が重要であり“活動のしやすさ”を念頭に置く必要がある、との意見がありました。

### 3 ヒグマの適正管理に必要な調査・研究の実施状況について

- ・環境研究総合推進費によるヒグマの個体数推定について、進捗状況の報告が為されました。事業終了後も個体群の増減傾向の把握を継続することが重要であり、今後のエゾシカ・ヒグマWGで事業の成果の活用法についてとりまとめ、科学委員会で確認した上で、地域連絡会議等に報告することとなりました。

### 4 知床半島ヒグマ管理計画の改訂について

- ・現行計画で記載されているゾーン・行動段階別の取組に加えて、問題個体の発生がある一定数まで増加した場合にどのような取組を行うのか、更に人間側の行動の評価も取り入れた形で順応的管理が行われれば、更に制度として明確になる、との意見がありました。
- ・漁業活動に関する危険事例については、産業活動を漁業に限定せず、人間側に起因するもののほか、人間側に起因しないものについてもモニタリングし、事例を減らしていくべき、との意見があり、次期計画の目標やモニタリング項目について整理していくこととなりました。
- ・現行計画では、十分達成されれば目標が達成される方策、全て達成されても目標が達成できない方策の両方が考えられることから、目標と方策のそれぞれの達成状況を明確にすることで、具体的に足り

ない方策や、方策が実行されていない理由を検討できるのではないかと、との意見がありました。

- ・ヒグマ出没時の追い払い対応について、ある程度の効果があると考えられるが、危険事例を発生させないよう人間側の行動に働きかける努力が重要との指摘がありました。
- ・現行計画の達成状況を点検するために、斜里町、羅臼町、標津町の住民及び知床半島に來訪する観光客を対象として、管理計画の内容やヒグマへの適切な対処方法の認知度等を把握する意識調査を令和3年度に実施することが了承されました。

## 5 令和2年（2020年）シカ年度のエゾシカ対策事業について

- ・今年度試験的に導入する日没時銃猟について、来年度以降は日の出前の実施も視野に入れて検討すると良い、との意見や、長期的に捕獲を持続していくために、捕獲機会がどれくらい増えたか、捕獲時のシカの反応、逃避行動に関するデータを記録すると良い、との意見が出されました。
- ・知床岬地区での捕獲について、捕獲圧を維持できないと再び増加に転じてしまう可能性があることから、今後、検討結果を踏まえた新たな捕獲手法の試行が必要、との意見がありました。
- ・森林の林床植生について、林冠ギャップがなければ現存量・多様性は減っていくことから、林床植生の傾向とシカの増減を単純に結びつけて考えない方が良く、との意見がありました。

## 6 第3期知床半島エゾシカ管理計画の改訂について

- ・改訂に当たり、遺産地域内では生物多様性保全（シカの低密度化を図る取組）を優先させるべきだが、隣接地域での管理目標は資源利用をより重視するなど、遺産地域内外で目標が異なることについて認識を共有しました。
- ・今回の改訂では、主に隣接地域に係る内容を改訂する方向で検討することとなり、その際、隣接地域での捕獲全体（狩猟・駆除・個体数調整）を総括し、隣接地域の区域の見直しも検討すべき、との意見がありました。
- ・遺産地域内においても、エゾシカを自然観察の対象とするなど、ジビエ利用だけでなく観光資源としての捉え方も必要ではないかと、との意見がありました。

## 7 令和3年度（2021年度）エゾシカ・ヒグマWGの開催予定

※第3期知床半島エゾシカ管理計画及び知床半島ヒグマ管理計画の改訂のため、令和3年度（2021年度）は3回開催する予定です。北海道が来年度行う予定の上位計画「北海道エゾシカ管理計画（第5期）」及び「北海道ヒグマ管理計画」の改訂と整合・連携をとりながら進めることとしています。

### ●第1回会議

令和3年（2021年）5～6月頃 釧路市

### ●第2回会議

令和3年（2021年）9～10月頃 釧路市

### ●第3回会議

令和4年（2022年）1～2月頃 釧路市